

第1回検討委員会について

第2回茨城沿岸海岸保全基本計画改訂検討委員会 H27.10.16

目次

資料-1

1) 第1回検討委員会の概要	1
2) 主な意見	2

1) 第1回検討委員会の概要

■日時：平成27年7月13日(月) 13:30～16:30

■場所：ホテル テラス ザ ガーデン 水戸

■議事：

(1) 海岸保全基本計画改訂の背景

- 海岸保全基本計画とは
- 海岸保全基本計画改訂の背景

(2) 茨城沿岸の現況と課題

- 防護面
- 環境面
- 利用面

(3) 茨城沿岸海岸保全基本計画の改訂の方向性について

(4) 今後の予定



2) 主な意見

海岸保全基本計画改訂の背景

- 東北では東日本大震災の復興が進んでいるが、その一方で、いろいろな問題もでてきている。
- 当初、モデル的に基準が示され、復旧が進んできたが、現場の地形や生態系、社会条件をよく考えて進めていく必要がある。

2) 主な意見

茨城沿岸の現況と課題 <防護面>	
侵食	<ul style="list-style-type: none"> ■ 砂浜の侵食問題は、ある海岸で砂がなくなり、その隣の漁港・港湾で過剰に砂が溜まるのが同時に起こっている。問題を解決には、関係機関が連携していく必要がある。
老朽化	<ul style="list-style-type: none"> ■ 資料では、築造後40年を経過した施設が多く、老朽化が進行しているがあるが、条件が良ければ100年、200年でももつ。施設の状況の変化によって、深刻なところとそうでないところがあることを考慮すべき。
津波・高潮	<ul style="list-style-type: none"> ■ 多くの海岸で、現況の堤防高が目指すべき堤防高に足りていないが、例えば、鹿島港の南では砂丘があり、大洗の南のほうも標高の高い崖がある。そういう状況は考慮していくのか。 ■ 目指すべき堤防高に対して、今、現在、高さが足りていないところがあるが、これは、今後、地震・津波が発生したら被害を受ける状況である。 ■ その情報をどう県民に示し、今後、どう対策していくのか、より一体的に県民の安全を確保していくために何が必要か示すべき。

2) 主な意見

茨城沿岸の現況と課題 <防護面>	
東日本大震災	<ul style="list-style-type: none"> ■ 東日本大震災の被害により、背後の地形や土地利用などなったか検証・整理し、課題の記載に盛り込んでいくとよい。
	<ul style="list-style-type: none"> ■ 震災の記憶がある方がちりじりになって、被災直後の現地踏査に基づく、丁寧な設計をしないと荒っぽい整備となり、不具合が残ってしまう恐れがある。
	<ul style="list-style-type: none"> ■ 海岸堤防等の粘り強い構造を説明する図で、表裏の法勾配が1:2となっている。防護面では粘り強い構造となるかもしれないが、利用を考えた場合、実際にはこれでは滑って降りられない。実際に堤防を作る時は、環境面、利用面もきちんと考える必要がある。
事業間調整	<ul style="list-style-type: none"> ■ 海岸保全基本計画は、海岸法に基づく計画であるので、森林法に基づく海岸保安林の計画は対象外となっている。ただし、多くの場合、そうした海岸法と他の法律の隙間の部分で上手く調整が図れないことに起因する問題が生じるので、どういう考え方で対処していくかといった配慮事項を記載し、関係機関に示していく必要がある。

2) 主な意見

茨城沿岸の現況と課題 <環境面>	
岩礁	<ul style="list-style-type: none"> ■ 岩礁域は限られた範囲にしかない。堤防を整備する際は、岩礁をできるだけ潰さないように作ったようにすべき。 ■ 海域に構造物をつくると、流れが変わり、粒子の動きが変わる。岩礁にいる生き物は、粒子の影響を受けやすい。影響を受けないような工夫を考える必要がある。
海岸植物	<ul style="list-style-type: none"> ■ 絶滅のおそれのある海岸植物がある場合、海岸管理者が現場で何のどいういったところに注意していくべきかをわかるように記載すべき。
絶滅危惧種	<ul style="list-style-type: none"> ■ レッドリストには、汽水域や河口域の植物も記載されている。それらの生息環境について、どういった環境で生息しているかもう少し具体的に記載すべき。 ■ すべてについて書き込むことはできないが、海岸管理者側から具体的に書いたほうが良い。
	<ul style="list-style-type: none"> ■ アカウミガメやコアジサシは、茨城がこれらの生息地の北限に近く、海岸保全においてもその配慮が課題であり、茨城沿岸の砂浜はそういう意味でも重要である。

2) 主な意見

茨城沿岸の現況と課題 <利用面>	
ジオパーク	<ul style="list-style-type: none"> ■ ジオパークについて紹介しているが、所在の紹介だけでなく、人が来て地域振興になるよう、資料を見た人が行って見たいとおもうような書きぶり、踏み込んだ内容で紹介すべき。
地域連携	<ul style="list-style-type: none"> ■ 市や県と協力してサーフィンのノウハウを紹介していくなど、限定的にでも、そういう取組みを少しずつ積み重ねていくことは、地域のためにすごく良いことである。
教育	<ul style="list-style-type: none"> ■ ミュージアムパーク(茨城県自然博物館)やアクアワールド(大洗水族館)は、国内でも有数の集客率を誇っている。その仕組みというのは、教育にあるという話をきいた。もっと、海の話を押し出していく仕組みをつくっていくということを考えた上で、教育、子ども達、というキーワードを本文に書き込んでいくと良い。
文化	<ul style="list-style-type: none"> ■ 県北の海岸で神輿をだす海辺の文化がある。

2) 主な意見

茨城沿岸の現況と課題 <共通>

トレードオフ	■ ハード対策だけを進めるのではなく、地域の活性化を含めて、環境、利用という部分にどう取り組んでいくかという仕組みづくりについて書き込んでいく必要がある。
--------	---